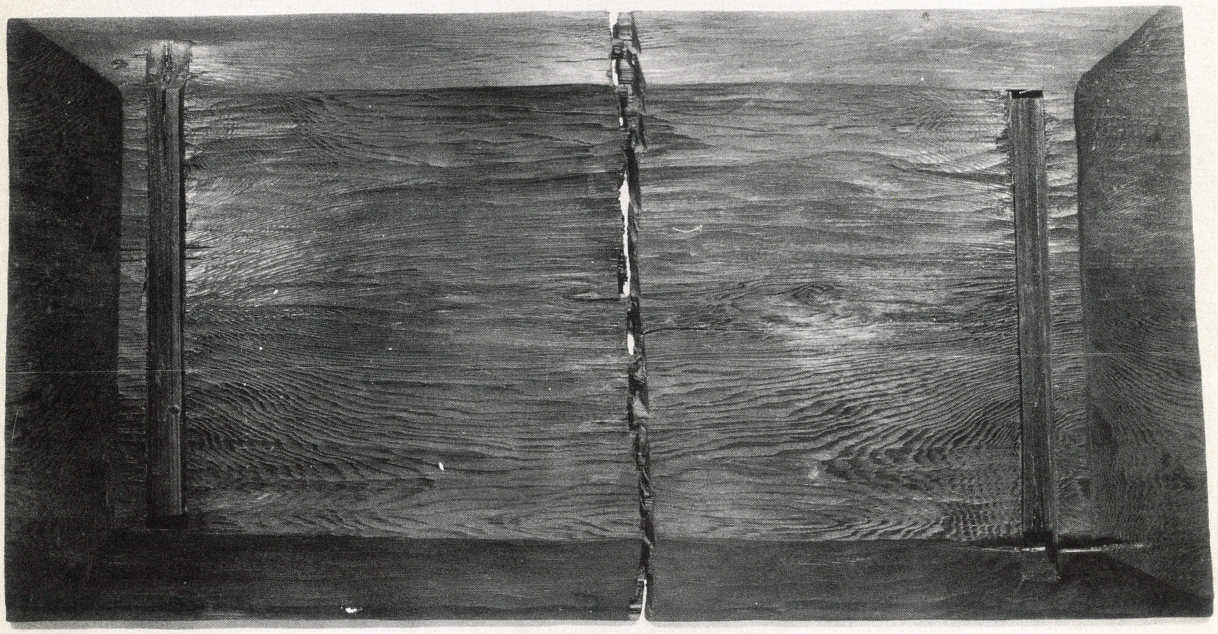
鳥取市文化財報告書26

岩吉遺跡

発掘調査概報Ⅱ



1990

鳥取市教育委員会

鳥取市遺跡調査団

鳥取市文化財報告書26　岩吉遺跡発掘調査概報Ⅱ　一九九〇　鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団

岩吉遺跡

発掘調査概報 Ⅱ

1990

鳥取市教育委員会
鳥取市遺跡調査団

例　言

1．本書は、鳥取市教育委員会の指導・監督のもと、平成元年度に鳥取市遺跡調査団が実施した、中小河川改修事業大井手川改良工事に係わる岩吉（いわよし）遺跡の発掘調査概報である。

2．調査を実施した遺跡は、鳥取市岩吉字寺田ほかに所在する。

3．本書における遺構の略記号として、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝状遺構、ＳＥ：井戸、ＳＢ：掘立柱建物跡をもちいた。

4．本書に使用した方位は磁北である。

5．平成元年度の調査成果については、将来的に詳報を刊行する予定である。

6．発掘調査によって得られた記録類および出土した遺物は、鳥取市教育委員会に保管されている。

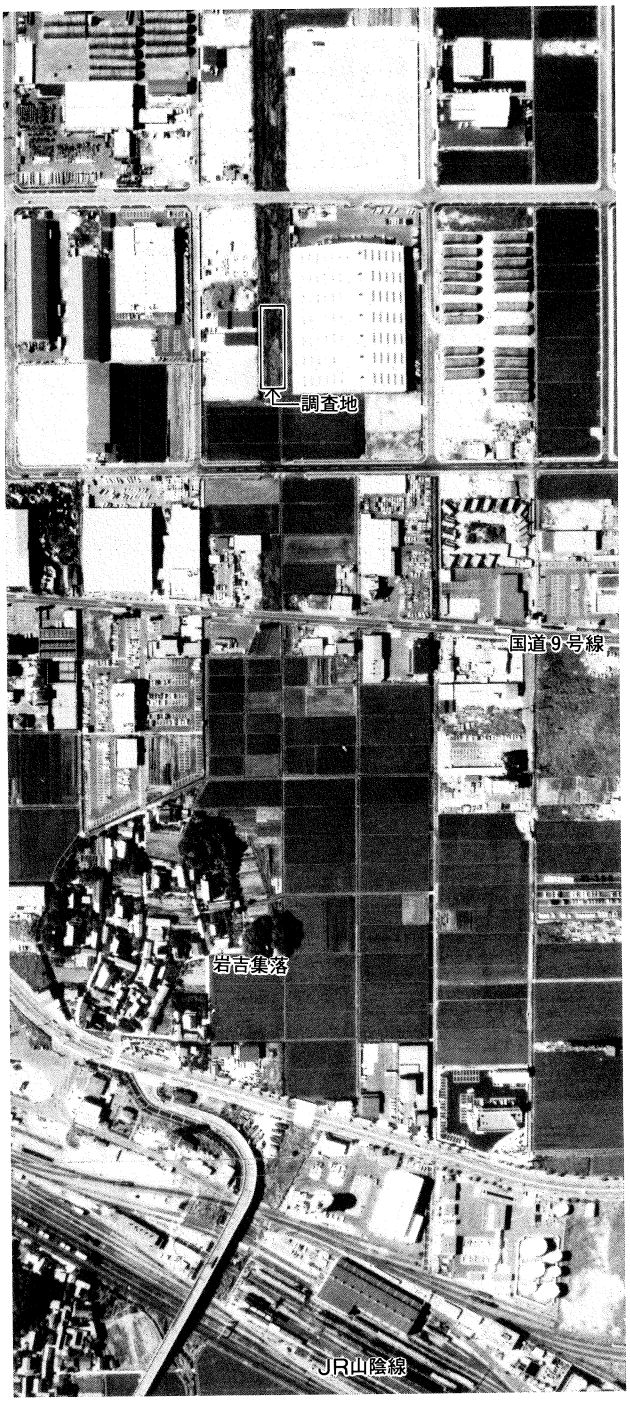
7．本書の作成は、鳥取市遺跡調査団が行った。

はじめに

岩吉(いわよし)遺跡は、千代川左岸に広がる肥沃な沖積平野のほぼ中央部に立地し、土器片の散布等で古くから遺跡として知られていました。その範囲は広大で、100 *ha* にもおよびます。過去に行なわれた発掘調査から、岩吉遺跡は縄文時代の終わりから古墳時代にかけての集落遺跡であることが確認されています。おそらく、弥生時代・古墳時代と鳥取平野での中心的な集落であったものと思われ、古代因幡地方の歴史を探るうえで大変貴重な遺跡です。

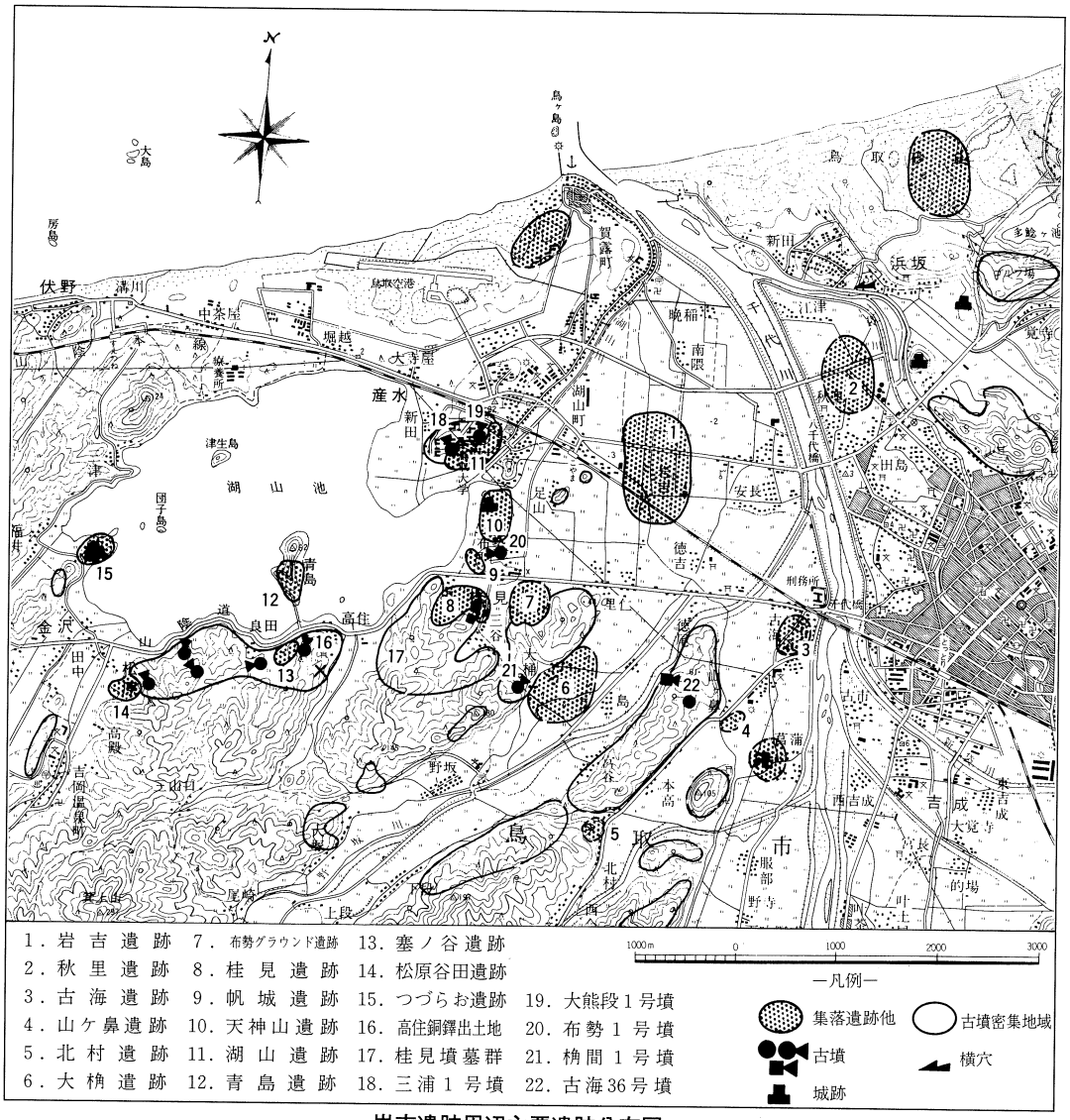
今回の発掘調査は、昨年度に続き大井手川改良工事に伴うものです。昨年度は岩吉遺跡の北限にあたる部分でしたが、今回はその南側に続く地区を調査しました。ちょうど岩吉遺跡を北から南へ向かって縦断している格好になります。

調査の結果、土坑・溝・井戸・掘立柱建物等の遺構とともに多くの土器や木庖丁・田舟・田下駄等の農具、刀形・船形の木製品、一枚板の机等、全国的にも珍しい遺物が出土し、大きな成果を得ることができました。



空から見た岩吉遺跡（S.59撮影）

位置と環境



岩吉遺跡周辺主要遺跡分布図

岩吉遺跡は、千代川によって形成された沖積平野の左岸中央部に、南北1,300ｍ・東西800ｍにわたって広がる大集落遺跡です。徳吉集落から北へ舌状に伸びる自然堤防状の微高地を中心に立地し、1.5km離れた東側には湖山池がひかえています。この微高地上には集落が、そしてその周辺には水田が営まれ、弥生時代～古墳時代にかけて鳥取平野での中心的な集落として栄えていたものと思われます。おそらく周囲を取り巻く古海・大桝・布勢・湖山等の集落遺跡は分村として成立・発展し、また、背後の丘陵には多くの古墳が築かれていくようになります。

調査の経過

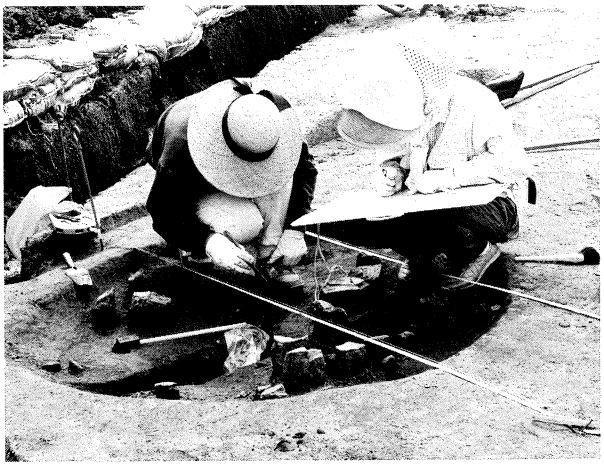
今年度は４月から発掘調査を行ないました。昨年度と同様に調査地の南北方向を軸として10ｍごとに区画を設け、北側から順に調査を始めました。また、地盤が軟弱なため壁面の崩壊を防ぐ意味で鋼矢板を打ち、湧水に備えて西側に排水路を設けました。

昨年度行なった調査の結果をもとに、まず古墳時代の遺構面まで剝ぎました。調査地南側で古墳時代後期の溝ＳＤ-03を確認しました。さらに掘り下げてみると、その下に重なるように溝ＳＤ-04が検出されました。これらの大規模な溝からは土器や石製品と一緒に多くの木製品が出土しました。一部に杭列が認められること等から農業用の水路と思われます。また、調査区の北側で多くの土坑、溝、井戸、土器群を検出しました。土坑の中には土器や炭化物を含む土器溜め状のものがあり、井戸ＳＥ-02では机の天板が枠板として転用されていました。

さらに掘り下げて、古墳時代前期の遺構面を検出しました。この面では、土坑、溝、井戸、柱穴状ピットを確認しました。井戸ＳＥ-03は、長方形の掘り込みの中央部に、径40～50㎝の石と板とを組み合わせて井戸枠を作っていました。底から甕が２個出土してい

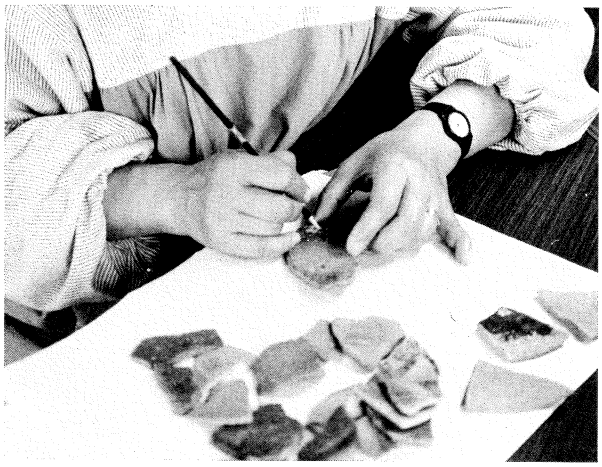
排水溝掘込み作業

遺構検出作業



土坑実測作業

土器水洗い作業



土器注記作業

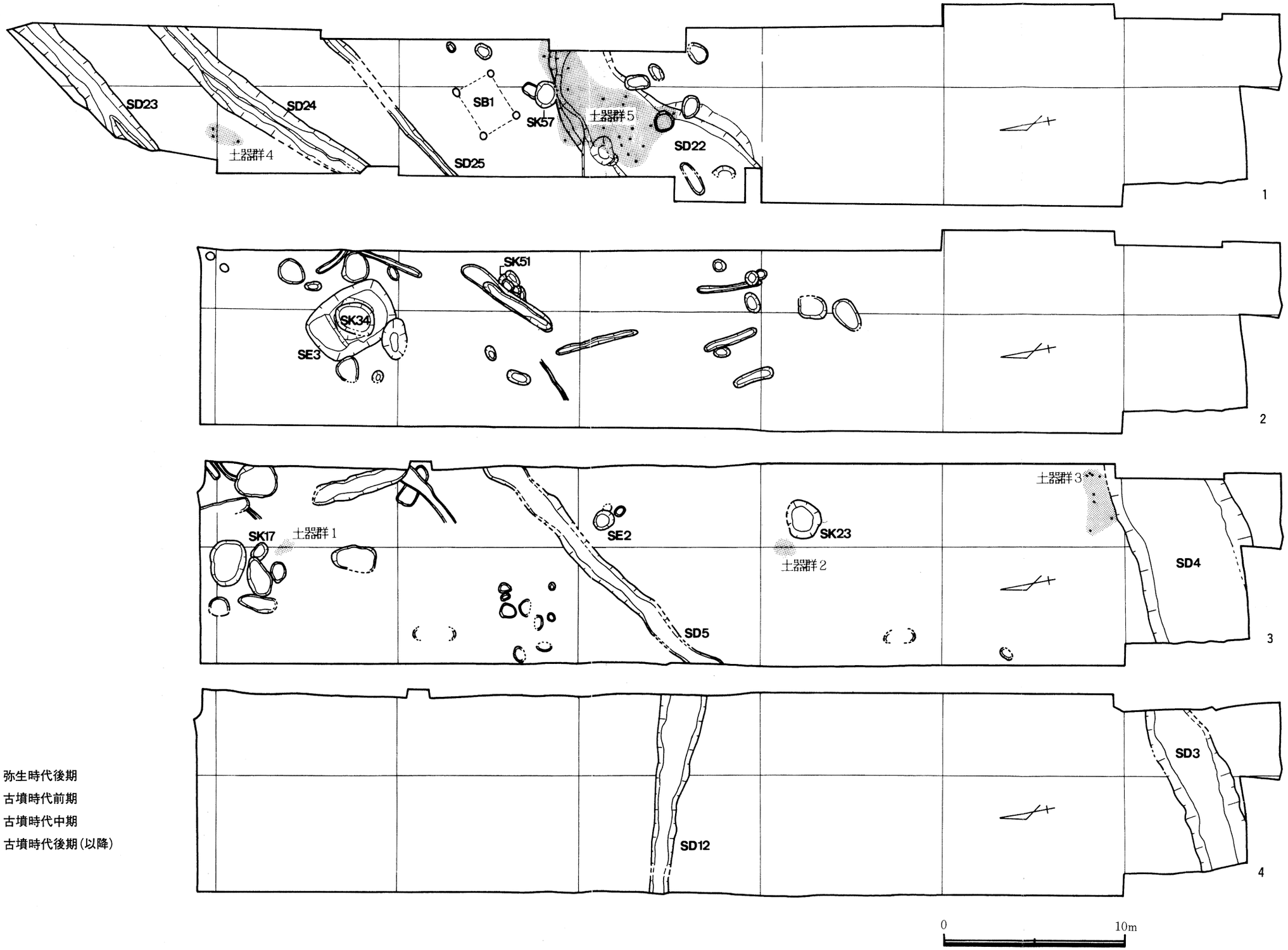
現地説明会風景

ます。そして、ほぼ南北や、南西ー北東方向を軸とした全長数mの溝が9本確認されています。

さらに下層へ調査を進めていくと、弥生時代後期の遺構面に達しました。土坑が集中する地域があり、この地域は、完形の土器を含む土器群5の範囲と重なります。その下部には、南西ー北東方向を軸とした規模の大きな溝SD-22が確認されました。SD-22は、土器・木製品・石を数多く出土し、木庖丁・竪杵・横槌等の農具を含みます。また、調査地の北側に南西ー北東方向を軸とする3本の溝がみられました。その他に1間×1間の掘立柱建物跡を検出しました。

こうして次々と明らかとなった遺構や遺物については、随時写真撮影や実測図をとり、正確に記録しました。取り上げた遺物は丁寧に水洗いをして、出土位置等を注記し、接合・復元を行ないました。特に木製品については、そのままでは干からびて原形をとどめない程縮んでしまうので、汚れを落とし、出土地を記した札をつけて水槽内で保存しています。

このように、調査は外作業と室内作業を並行して行ない、平成元年3月まで実施しました。

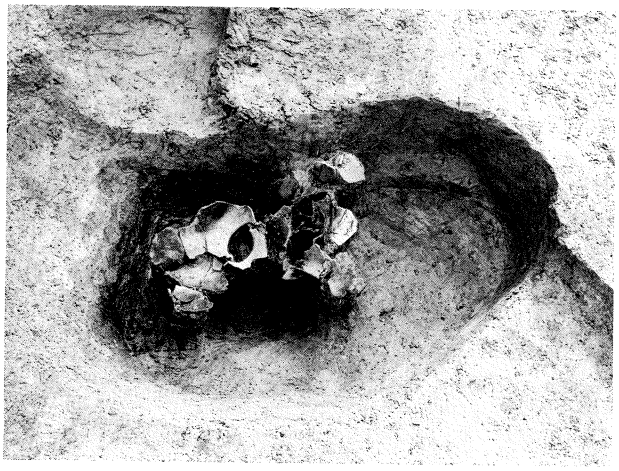


1．弥生時代後期
2．古墳時代前期
3．古墳時代中期
4．古墳時代後期(以降)

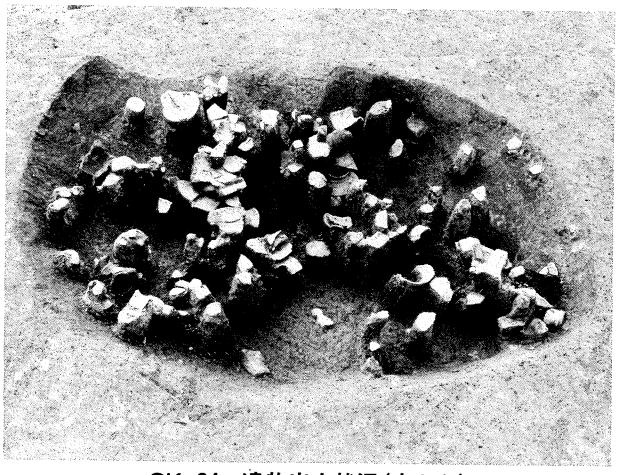
岩吉遺跡構配置図

時　期	遺構	数	規　模(単位cm) [長　径] × [短　径] × [深　さ]	出土遺物
弥生時代後期	土　坑	12	57～202 × 41～(127) × 88～42	弥生土器・石器・炭化物
	溝	4	(810)～(1370) × 69～485 × 33～50	弥生土器・木製品・石器
	掘立柱建物	1	298 × 215 (1間 × 1間)	土器片
	土器群	2	――――	弥生土器
古墳時代前期	土　坑	21	(63)～227 × (48)～171 × 3～44	土師器・石・炭化物
	溝	9	(187)～547 × 22～93 × 2～29	土師器・木製品・石
	井　戸	1	215 × 225 × 224	土師器・木製品
	柱穴状ピット	2	――――	土師器片
古墳時代中期	土　坑	23	45～257 × 36～198 × 4～61	土師器・木製品・石・炭化物
	溝	8	(93)～(925) × 24～642 × 5～95	土師器・木製品・石
	井　戸	1	110 × 98 × 119	土師器・木製品
	土器群	3	――――	土師器
古墳時代後期	溝	1	(810) × 485 × 50	土師器・木製品・石

岩吉遺跡で検出した遺構(平成元年度調査分)　　(　　)は検出値



SK-51　遺物出土状況(北から)



SK-34　遺物出土状況(東から)

SK-17　遺物出土状況(北から)

土　　坑

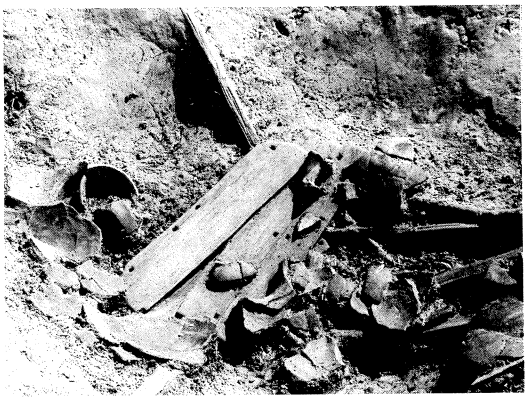
弥生時代後期12基、古墳時代前期21基、古墳時代中期23基の土坑をそれぞれ検出しました。楕円形・隅丸長方形等と形や大きさは様々ですが、中には土坑内に甕を安置したもの(SK-17、写真下)や土器溜め状のもの(SK-51・34・23、写真上・中・右ページ写真)があります。土器溜め状の土坑では、多くの甕や高杯等の土器とともに燃え残りの木片や多量の炭化物が一緒に出土しています。土器の表面もススで真っ黒で、火をうけた様子がうかがえます。おそらく、土坑内で火をたき、土器を投げ込むといった祭祀が行われたものと考えられます。

また、弥生時代後期の土坑で、3重圏スタンプ文で装飾された鼓形器台がバラバラに破砕された状態で出土しています。また、古墳時代前期の土坑では瀬戸内系の土器とともに2重圏スタンプ文のついた土器片が出土しています。

SK-23　遺物出土状況(南から)

土器溜め状土坑のSK-23は、断面がすり鉢状で、他の土坑と比べて深さが61cmと深く、大変多くの土器や炭化物、木製品、石、木の実が出土しています。土坑の一番上には、底部を欠く大型の壺が横向きに置かれ、その下からはススで真っ黒の甕や、バラバラに破砕され、赤彩された高杯等が、焼け残った木片や多量の腐葉土状の炭化物と一緒に出土しました。土坑下層では長さ40～50cm・幅2cm程の両端を尖らせた串状の木製品が30本以上みられ、さらに床面からは組み合わせの底板が出土しました。串状の木製品と底板とは一つの製品になるか否か等、さらに検討が必要です。いずれにせよ、SK-23は他の土坑以上に祭祀的色彩が濃いものと思われます。

SK-23　下　層(東から)

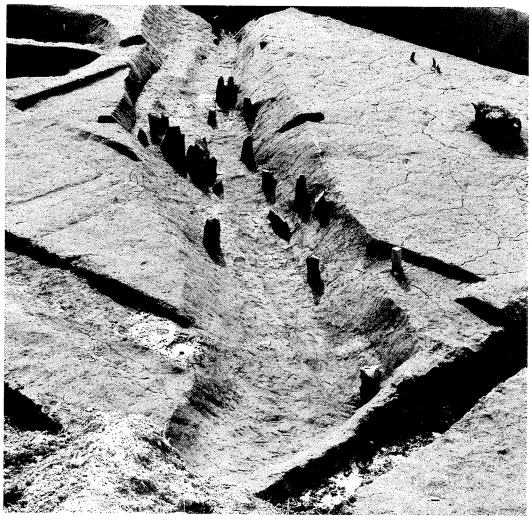


SK-23　床面出土木製品(北西から)

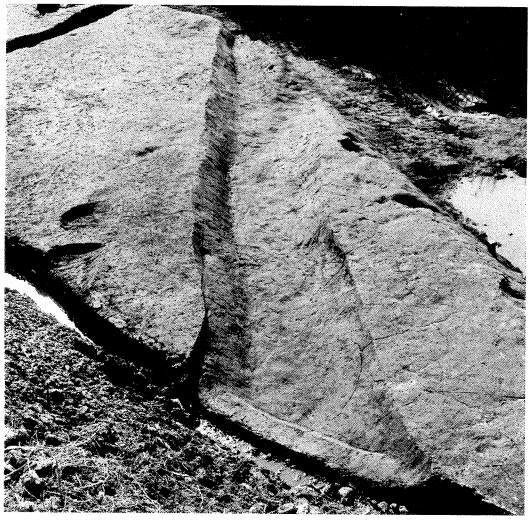
溝

溝には、幅が６ｍもある水路状の大規模なものから、全長2.3ｍ・幅0.6ｍと小さなものまで確認できました。

SD-22は、幅4.8ｍ・最深0.5ｍで、弥生時代後期初め頃の多くの土器や木製品等を出土しました。木製品の中には、木庖丁３・竪杵・横槌等があります。

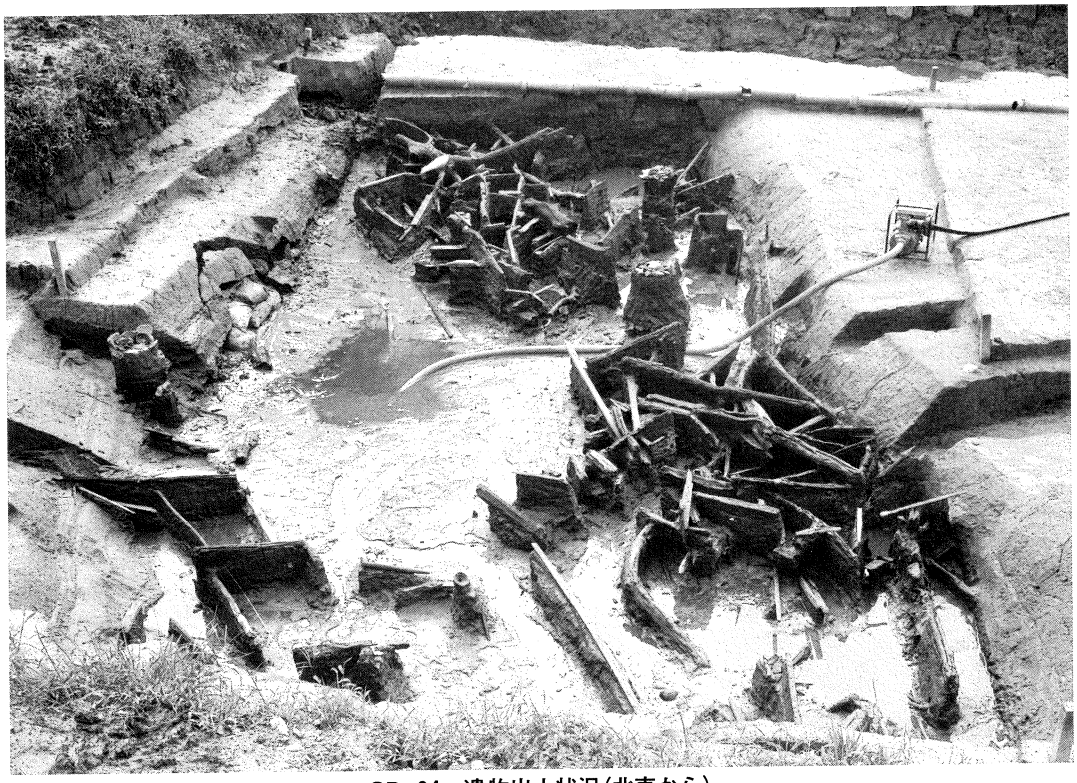


SD-24（北東から）



SD-23（北東から）

SD-22　遺物出土状況（北東から）



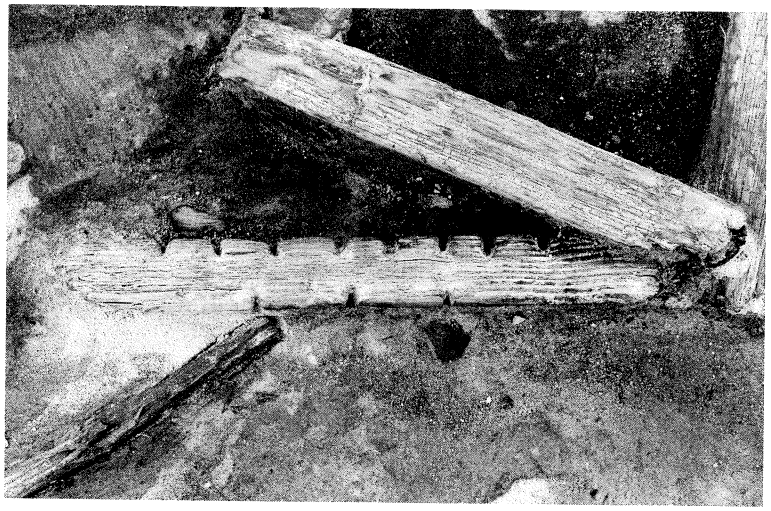
SD-04　遺物出土状況(北東から)

SD-04は、SD-03の下部に位置し、幅6.4m・最深95cmで、軸をN－82°－Eにとります。甕や高杯を主とする土器の他に、木製品が数多く出土しました。中でも、田下駄等の農具の他に、船形木製品・刀形木製品といっためずらしい木製品が注目されます。おそらく、これらの模造された製品は、何らかの祭祀的な行事で使用された後、SD-04に流されたものと思われます。出土した土器から、古墳時代中期後半頃の溝と思われます。

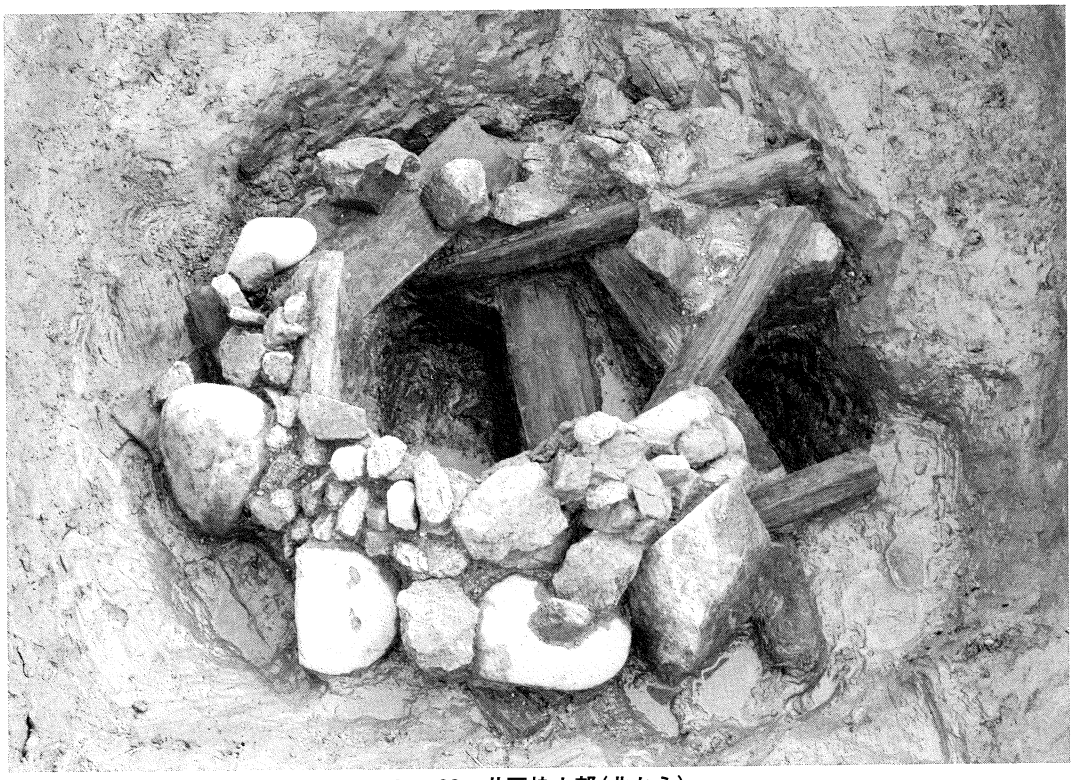
SD-04　出土高杯

SD-03　遺物出土状況(北東から)

SD-03は、SD-04の上部に位置し、幅3.3m・最深47cmで、軸をN－80°－Eにとります。須恵器壺・蓋杯、土師器甕・高杯・小壺等の土器等の他に、田下駄・火きりうす・網枠等の木製品が出土しています。SD-04と同様に一部に杭列が認められること等から、農業用の水路としての役割を果たしていたものと考えられます。出土した土器から古墳時代後期前半頃の溝と思われます。



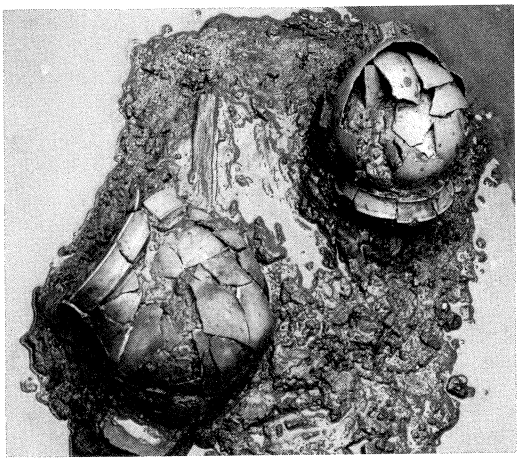
SD-03　出土火きりうす



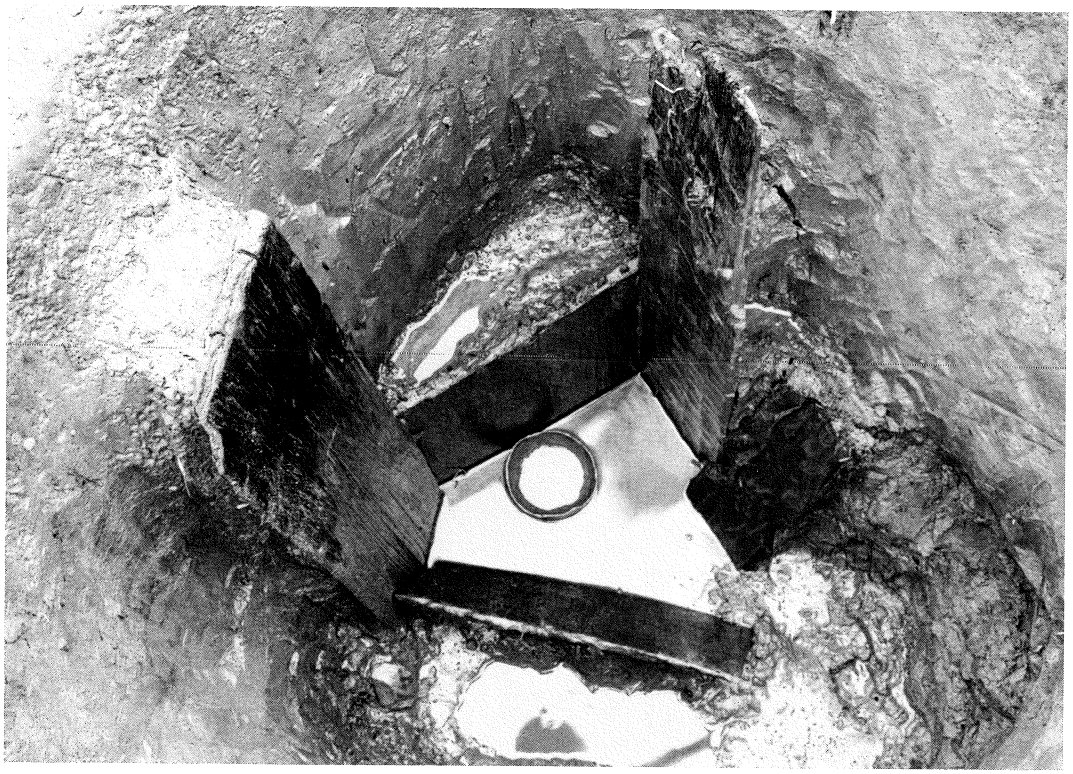
SD-03　井戸枠上部(北から)

井　戸　SE-03の井戸枠は、4.8×3.5mの長方形の掘り込みの中に板と径40～50cmの石やこぶし大の石とを組み合わせて作られていました。底面で1.5×1.4mと方形に近い不整円形で、井戸枠からの深さは1.7mを測ります。底から古墳時代前期の甕が2個出土しています。

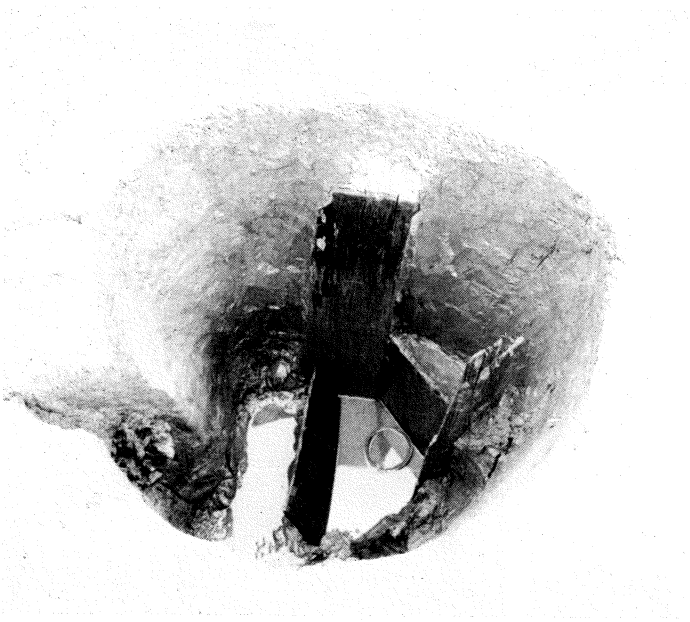
SE-03　井戸枠下部(北から)



SE-03　底面土器出土状況



SE-02(南東から)



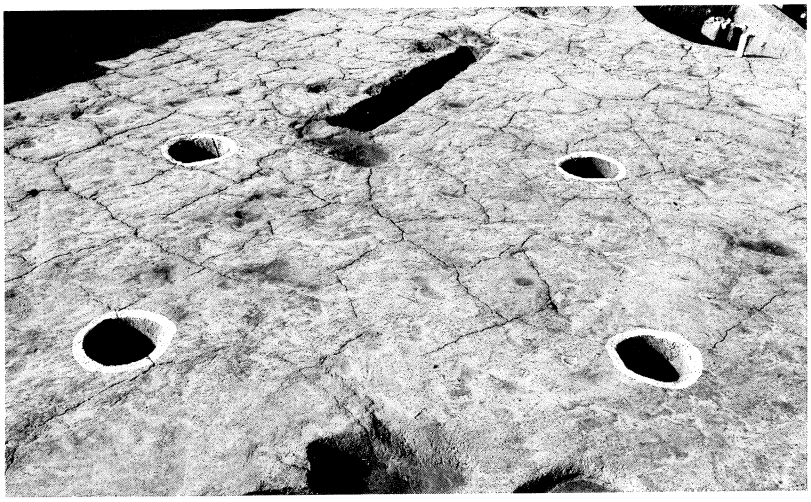
SE-02　全　景(北東から)

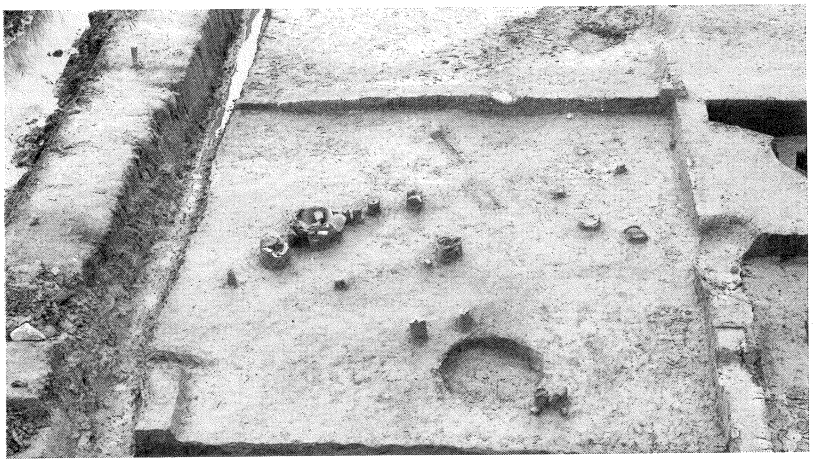
SE-02は1.1×0.98mの不整円形で、検出面から深さ1.2mを測ります。5枚の板を組み合わせて井戸枠としています。このうち2枚の板は、折れた脚部が残る机を切断して、井戸枠に転用したものです。机の上面を井戸内部に向けて使用していました。出土した土器から、古墳時代中期の井戸と思われます。

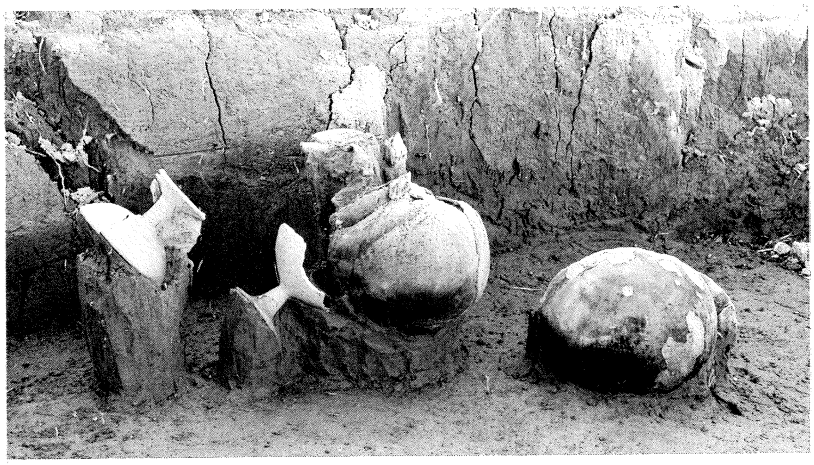
その他の遺構

土器が集中してみられる地域が何ケ所かありました。土器群4はSD-24の南側、土器群5はSD-22の上部、土器群3はSD-04の岸辺にあたります。台付壺や甕、高杯等、完形もしくは完形に近い土器が出土しています。

その他に、1間×1間の掘立柱建物跡や柱穴状のピット数基が確認されています。







写真上
SB-01(北から)
写真中
土器群5
(南から)
写真下
土器群3
(東から)

土　　器

今年度の調査で出土した土器には、弥生時代後期前半から古墳時代後期初頭にかけての土器とおよそ400年くらいの幅がみられます。これらの土器は大別して、弥生土器、土師器、須恵器に分かれ、古墳時代後期に出現する須恵器は量的には少なく、SD-03とSD-12で出土がみられる程度です。それ以外の土器の多くは土坑や溝等で出土したもので、この中でもSK-23、SD-03、SD-04、SD-22からは多量の土器が木製品と一緒に出土しています。

出土した土器の中には、瀬戸内系と思われる甕(5)や叩き目のある甕(14)等、一般的にみられる土器とは少し異なった特色をもつものもみられます。また、3重圏や渦巻のスタンプ文をもつ土器片(11)(12)が数点出土しています。

1

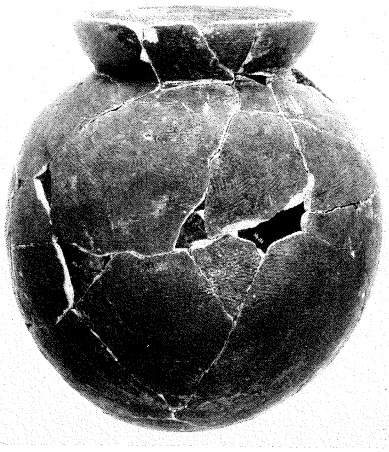
甕(SD-22)

2

甕(土器群5)

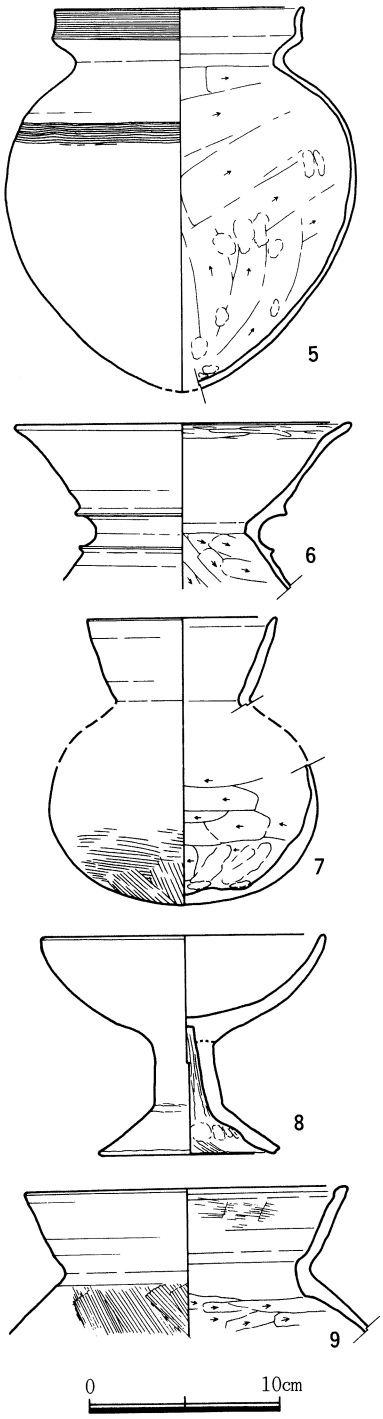
3

甕(SE-03)



4

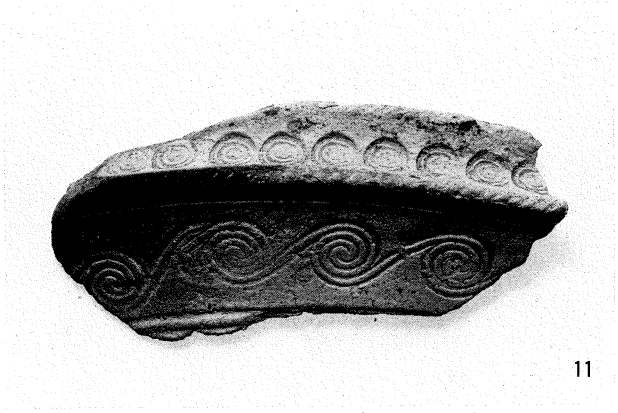
甕(SK-23)



岩吉遺跡出土土器実測図
(5－SK62、6－SK34、7－SE02
8－SD04、9－SD03)

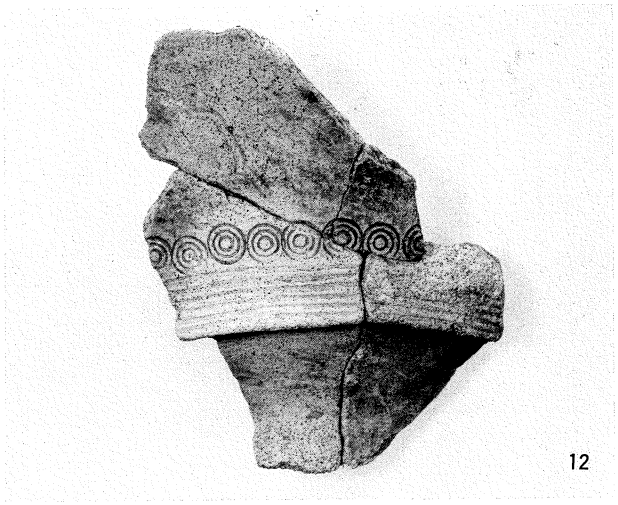
10

台付壺(土器群５)



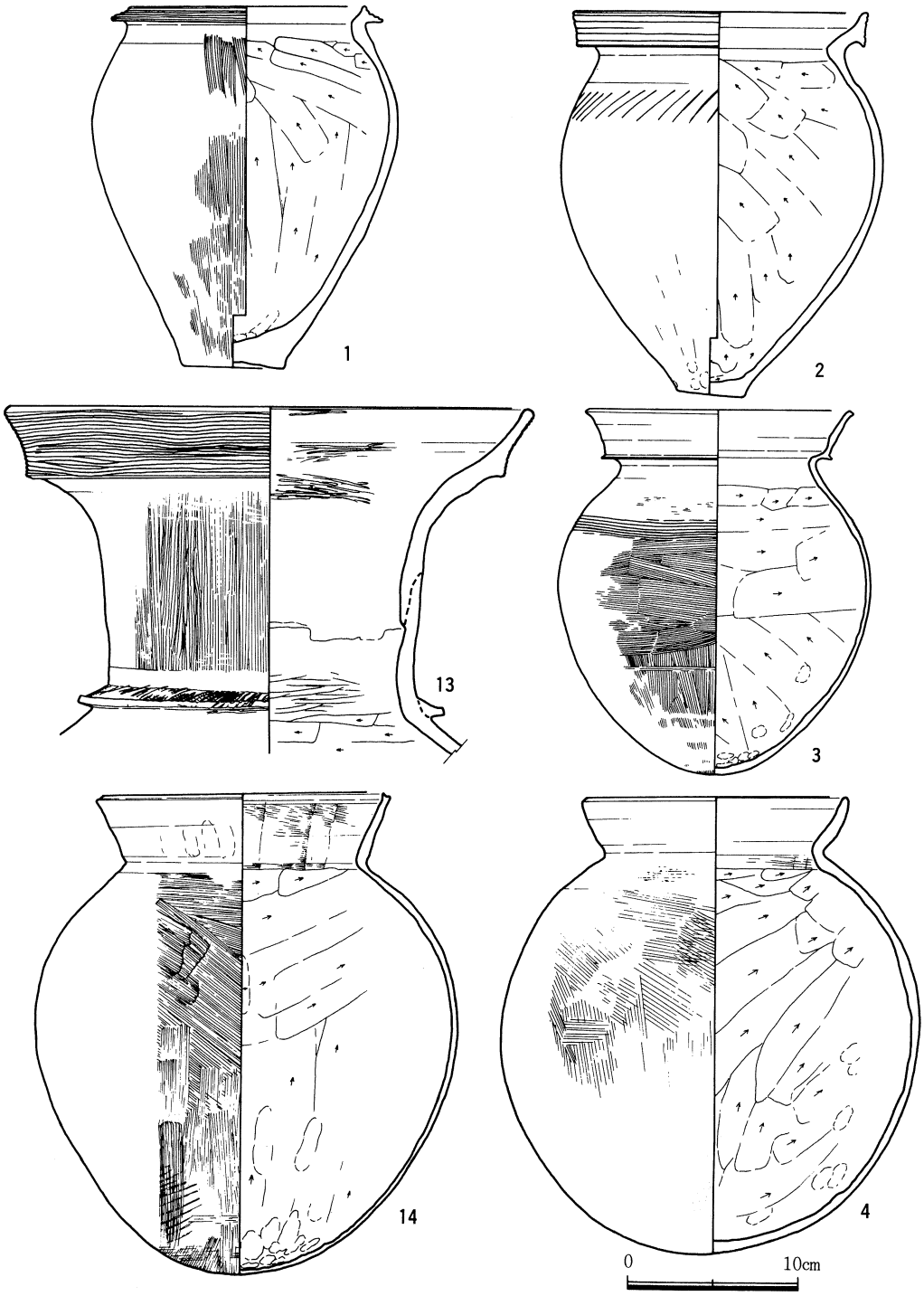
11

３重圏・渦巻スタンプ文(SD-24)



12

３重圏スタンプ文(鼓形器台SK-57)



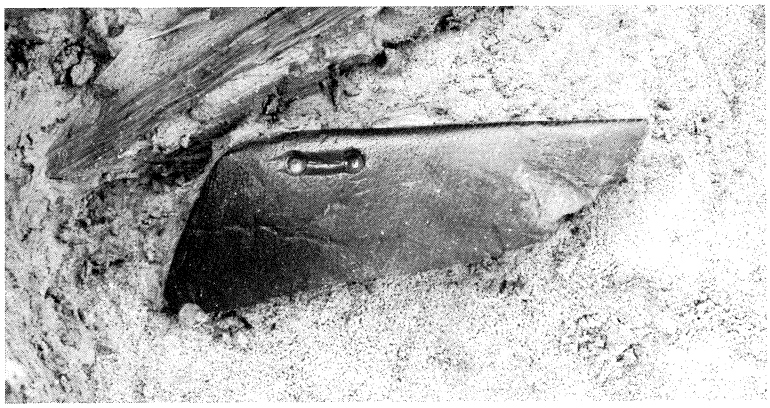
岩吉遺跡出土土器実測図
(13-SD24、14-包含層)

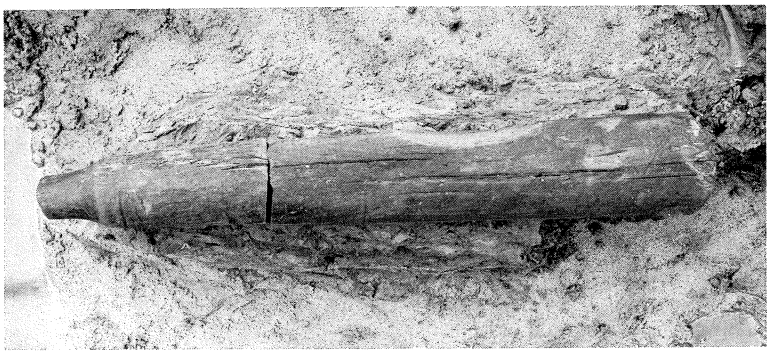
木　製　品

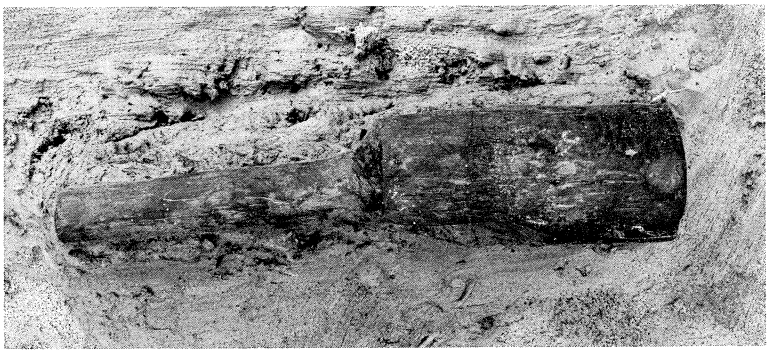
弥生時代後期初めから古墳時代後期初頭にかけて、多くの木製品が出土しました。木製品の多くは水路状の溝であるSD-04・SD-03の他、SD-22、SE-03、SE-02、SK-23で出土したものです。

2基の井戸では、井戸枠に使用された板が数多く出土し、中には机を転用した例もみられました。

SD-22、SD-04、SD-03出土の木製品には、農具や角材等があります。また、特に目を引くものとしてSD-04出土の祭祀用と思われる刀形・船形の木製品があります。







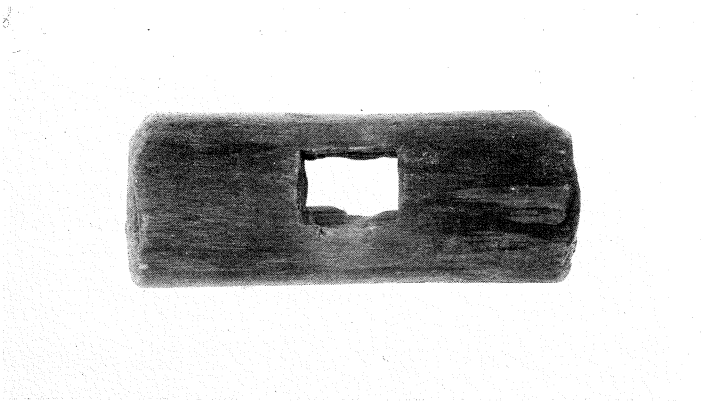
写真上から

- 木庖丁A出土状況
- 木庖丁B
- 竪杵出土状況
- 横槌出土状況

（すべてSD-22出土）

田舟出土状況（全長82.2cm）

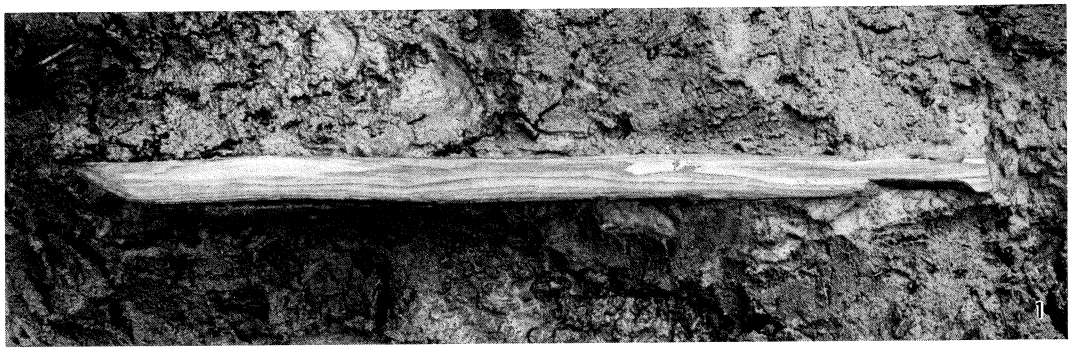
田下駄出土状況（25×10×1cm）



把　手（部分）

SD-04から出土した木製品の中には、稲作に使用されたと思われる農具がみられます。田舟、田下駄、農具の柄や把手等です。他に、桶や箸等の生活用品も出土しています。また、刀形・船形木製品といっためずらしい木製模造品が出土しています。

（1）は全長54.6cm、先端部が鰤鋒（かますきっさき）で断面が逆三角形と刃の表現がみられ、ほぼ実寸大の大刀を模したものと思われます。（2）は全長24.8cmで、鞘に納めた刀を模したものと思われます。（3）は残部の長さ19.4cmで、波きり板をもった準構造船のミニチュアです。おそらく、この三つの木



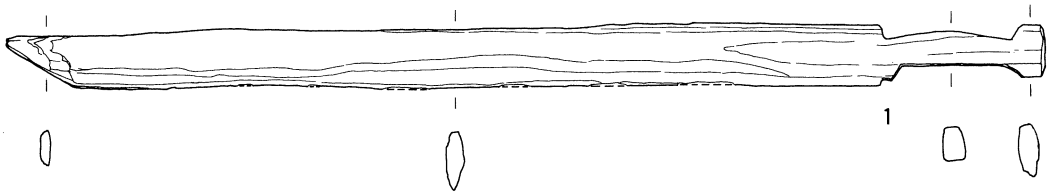
製品は、祭祀的な行事にもちいられ、後にSD-04に流されたものと思われます。

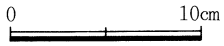
1．刀形木製品
(54.6×3.3×1.2cm)

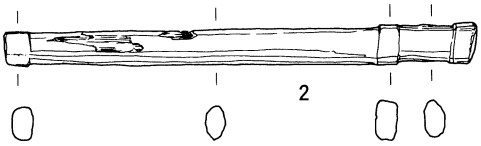
2．鞘付刀形木製品
(24.8×2.2×1.2cm)

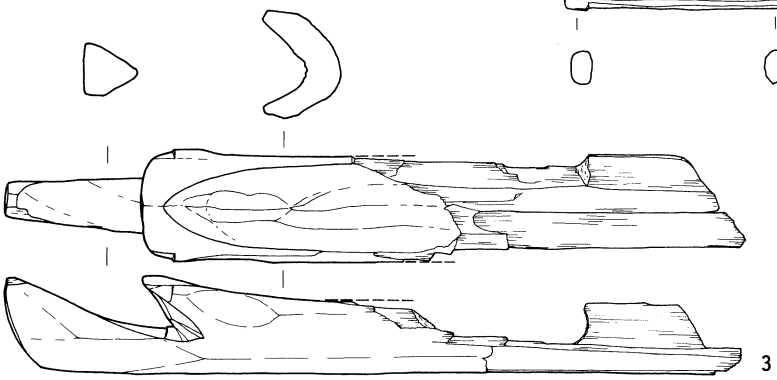
3．船形木製品
(19.4～×2.9×2.6cm)

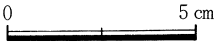
SD-04　出土木製品



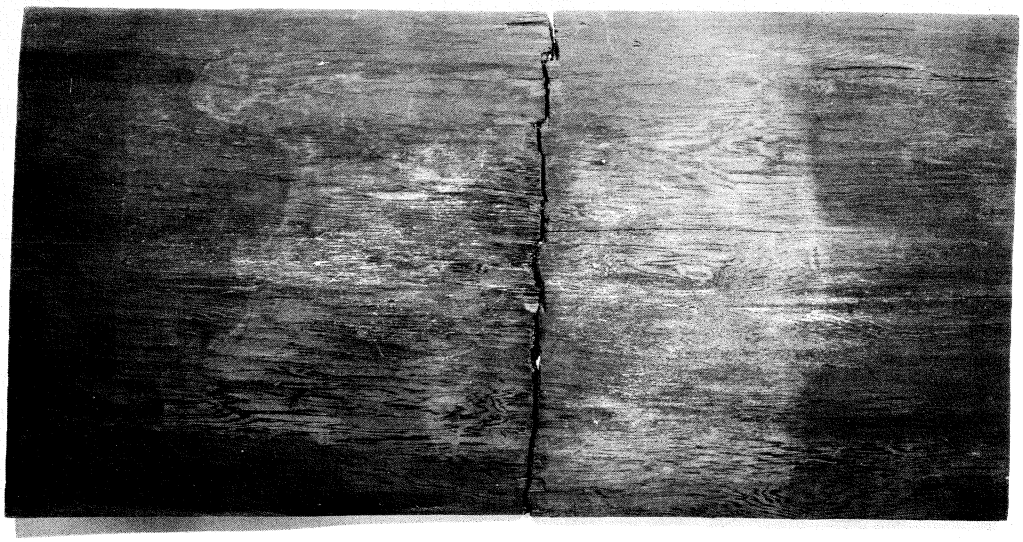




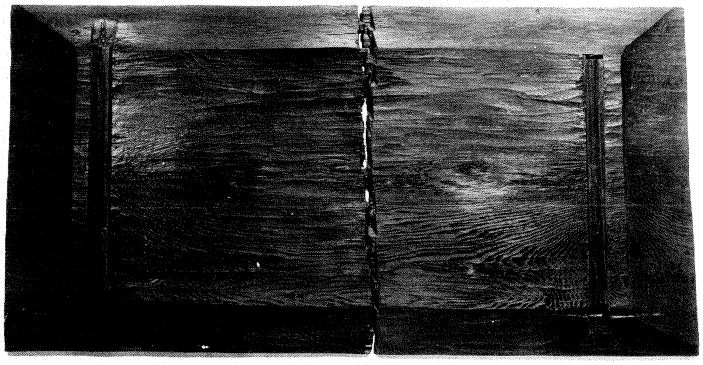




SD-04　出土木製品実測図



机(表面 SE-02出土)



机(裏面)

机の天板と思われるこの木製品は、斧または鑿(のみ)状の工具で二つに切断し、机表面を井戸内部に向けて井戸枠として使用していました。全長95.2cm・幅49cm・厚さ1～3cmを測ります。12.5cm内側を厚めに加工し、1cm弱彫り込んで、互い方向から板状の脚部を滑らせて挿入し組み立てるといった接合方法をとっています。後に脚が折れたのか、挿入部分に脚部が残っています。出土した土器から、古墳時代中期の製品と思われます。

ま と め

今回の調査地は、広大な岩吉遺跡のほんの一部にすぎませんが、昨年度に続き多くの成果を得ることができました。調査区を上層から順次剝いでいった結果、古墳時代後期・古墳時代中期・古墳時代前期・弥生時代後期の遺構面を確認し、土坑・溝状遺構・井戸・掘立柱建物跡・土器群等の遺構を検出しました。また、これらの遺構に伴い、多くの土器・木製品や石製品が出土しました。

土坑は、弥生時代後期にはSD-22周辺に集中してみられ、古墳時代前期になると集中する地域が何ケ所かに分散するといった傾向があり、中期になるとその傾向は一層進むようです。溝状遺構は、各時期を通じて軸を南西ー北東方向へとるかまたはほぼ南北方向へとるかという統一がみられます。ただ調査地南側のSD-03、SD-04は比較的傾きが緩やかであり、岩吉遺跡の立地を考えると溝の主軸方向は地形からくるものと思われます。しかしながら、SD-12は近世の遺構で、どちらかと言えば現在の地割に沿った形をとっています。

また、今回出土した遺物の中には多くの木製品があります。木製品は、一般的には朽ちて残らないということを考えると、今回の調査で木製品が数多く出土したということはそれだけで大きな成果と言えましょう。木製品の中には、木庖丁・竪杵・横槌・田下駄・田船・桶・網枠・木錘・机等といった稲作に関係する農具や生活に根ざした品々が出土しています。さらに、刀形木製品・鞘付刀形木製品・船形木製品といった祭祀にもちいられたと思われる木製品も出土しています。また、多くの土器が出土しており、岩吉遺跡が当時鳥取平野での中心的な集落であったと考えられることから、そこから出土した土器は大きな意味をもつ資料であると思われます。ただ厳密な意味で言えば、今回調査した地域は集落の本体からは幾分外れ、北側に昨年度調査した水田をひかえた中間的な地域であり、祭祀的色彩をもつ土坑が集中する地域でもあります。そこで出土した土器は純粋な意味での集落の土器とは言えないかもしれませんが何らかの問いかけを我々に示してくれるものと思います。

このように、今回の発掘調査によって、稲作を生活の基盤とした当時の人々の生活が一端ですが明らかとなりました。また、土坑で火をたいて土器を投げ入れたり、土坑内に土器を安置したり、木製の模造品をもちいた祭りを行ないそれを溝へ流したり等、当時の人々の風俗や習慣をかいまみることができました。広大な岩吉遺跡を考えると今回の調査範囲は極めて限定された小地域なものでしたが、今後、発掘調査を南へ進めていく上で、これらの調査成果は大きな意味をもってくるものと思われます。

鳥取市文化財報告書26
岩吉遺跡発掘調査概報Ⅱ

平成2年3月　印刷・発行

編集・発行：鳥取市教育委員会
鳥取市遺跡調査団
印　刷　所：日ノ丸印刷株式会社